

聖書日課 『からし種』 2018.11.25~12.2

<p>25日 (日)</p> <p>使徒 28章</p>	<p>「ローマからは、兄弟たちがわたしたちのことを聞き伝えて…迎えに来てくれた。パウロは彼らを見て、神に感謝し、勇気づけられた」(15節)。ローマ教会にはパウロの同労者たちが集っていた(ローマ16章参照)。パウロの宣教から生まれた祈りのネットワークが、難破したパウロたちを温かく迎え、励ましたのだ。</p>
<p>26日 (月)</p> <p>ローマ 1章</p>	<p>「わたしは福音を恥としない。福音はユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです」(16節)。「ユダヤ人だけ」に独占されてきた神の恵みは「信じる者すべて」に与えられると確信するパウロの言葉は、ローマを超えて世界中に届けられ、すべての民を希望につなぐ福音となった。</p>
<p>27日 (火)</p> <p>ローマ 2章</p>	<p>「すべて善を行う者には、ユダヤ人はもとよりギリシア人にも、栄光と誉れと平和が与えられます。神は人を分け隔てなさいません」(10-11節)。神は民族で分け隔てしない。この当たり前の恵みを踏みにじり、さまざまな隔ての壁や分断、ヘイトをつくり出してきた私たち。神の恵みと裁きを畏れ敬う「わたし」とさせてください。</p>
<p>28日 (水)</p> <p>ローマ 3章</p>	<p>「ユダヤ人もギリシア人も皆、罪のもとにある」(9節)、「ただキリスト・イエスの贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされる」(24節)。人間は自らの行いで神の義を得ることはできない。生まれながら「的外れ」を抱え神の義からズレているから。キリストはその私たちを無償で神の恵みに取り戻すために来てくださった。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com 大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2018.11.25～12.2

<p>29日 (木)</p> <p>ローマ 4章</p>	<p>「彼(アブラハム)はこの神、すなわち、死人を生かし、無から有を呼び出される神を信じたのである」(口語訳17節)。愛に「見える証拠」を求める時、愛は失われるように、神に「見える証拠」を求める間は、信仰に生き生きとした命は流れない。「無から有を呼び出す神」を信じる時、アブラハムの恵みを体験する者とされる。</p>
<p>30日 (金)</p> <p>ローマ 5章</p>	<p>「わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました」(8節)。私が神に立ち帰って善を行ったから…ではなく、立ち帰ろうとせず唾を吐きかけている時になお、神は愛してくださった。今日、その神の愛にまっすぐ心に向けて歩ませてください。</p>
<p>12月1日 (土)</p> <p>ローマ 6章</p>	<p>「わたしたちは、バプテスマによってキリストと共に葬られ、その死にあずかる者となりました。…わたしたちも新しい命に生きるためなのです」(4節)。古い自分に死ぬとき、新しい命が始まる。ただし、私の固い決意がそれを可能にするのではない。キリストが私のために死んでくださった恵みが、私を葬り、新たな命に生かす。</p>
<p>2日 (日)</p> <p>ローマ 7章</p>	<p>「わたしたちは、自分を縛っていた律法に対して死んだ者となり、…“霊”に従う新しい生き方で仕えるようになっているのです」(6節)。慣習や経験から、出来事を判断することは簡単で安全。しかし、主の導きによって示され新しい信仰の挑戦にパウロはわたしたちを送り出してくれている。主の計画に期待して。</p>